



# CODATA

The Committee of Data of the International Science Council

国際学術会議データ委員会  
概要

2021年10月

日本学術会議

# CODATAとは



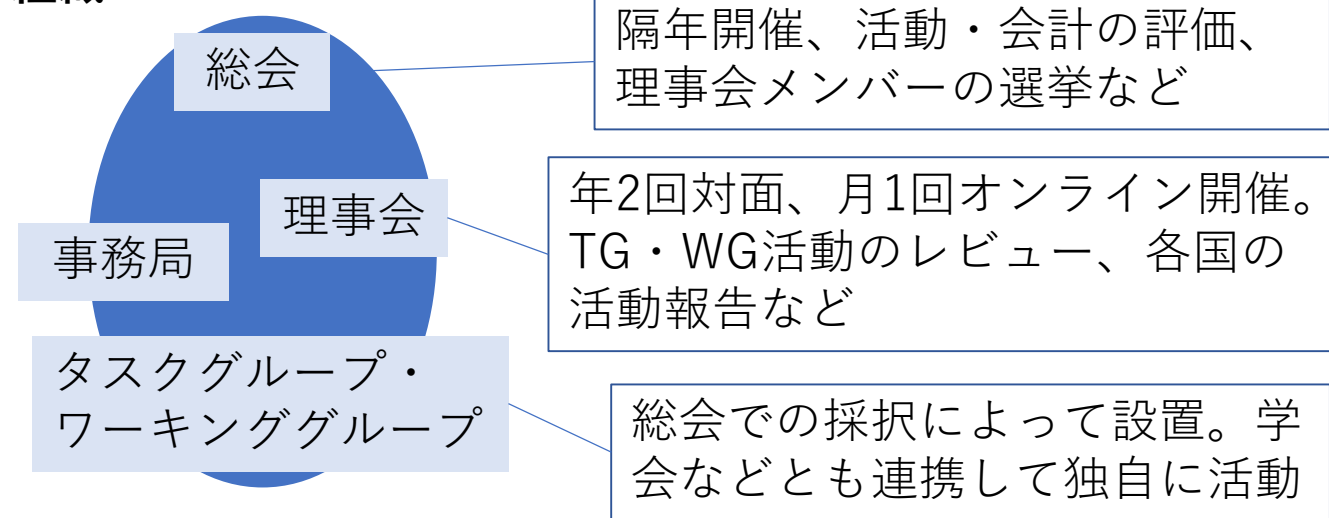
## 目的

- 科学データの管理と保存を改善するための組織的な国際活動を行う
- 基礎物理定数の決定等、科学技術の基盤となるデータの管理
- オープンサイエンスを支えるデータポリシーなど、国際的なデータ共有基盤の形成

## 沿革

- 1966年 ICSU Committee on Data for Science and Technology として発足
- 2015年 ICSUとISSCが合流してISCとなるに伴い、正式名称をThe Committee of Data of the International Science Councilとする

## 組織



## 資金

- メンバー組織分担金
- ISCからのプロジェクト予算等

## メンバー

18 ナショナル・メンバー (日本学術会議)	30 国際ユニオン・ISC関連組織	4 機関会員	5 協力組織
------------------------------	----------------------	-----------	-----------

# CODATAの活動



## 4つの支柱

### 世界をよりよくするためのデータ

10カ年計画として定めた「領域横断型課題解決のためのデータ活用」と、グローバル・オープンサイエンス・クラウド・イニシアティブに基づき、現実世界での課題に対するデータの応用の方策を探索する

### データ・ポリシー

オープンデータとオープンサイエンスのための原則、方針、実践を拡大・推進し、国際的な学術データ共有に向けてデータ・ポリシーの協調を図る

### データ・サイエンス

データサイエンスの最前線を推進する。基礎物理定数の決定などデータ共有のための基準を提供するとともに、国際会議 SciDataCon、データサイエンスジャーナルなどを通じて分野横断的なデータ活動を推進する

### データ・スキル

オープンデータをサポートするために必要なデータスキルや各国の科学システムの機能を拡充させることで、オープンサイエンスを実践するために必要な能力を構築する。国際的なデータスクール・ワークショップを開催

# 日本学術会議・日本の科学者 による貢献



## 創設

CODATAの創立に当たっては、日本の小谷正雄(東京理科大学学長・東京大学名誉教授)が指導的な立場で参加し、1978-1982には会長に選出された。日本学術会議は創立当初からのナショナル・メンバーとして活動を支えてきた。これ以降も我が国の科学者が会長・副会長・理事などとして継続的に運営に加わっている

## 組織運営(近年)

2010-2018 五條堀孝(国立遺伝学研究所教授・副所長：  
就任当時) 副会長  
2018-2021 芦野俊宏(東洋大学) 理事会メンバー

## 財政的貢献

我が国の分担金は米中に続いて第三位

## 学術的貢献

### 基礎物理定数の決定

CODATA創設から継続している活動。2019年にはプランク定数のCODATA推奨値が重さの単位Kgの基準として採用されたが、この値を決めるための国際プロジェクトには産業技術総合研究所などの研究者が多大な貢献をした

### データポリシーに関する国際的議論

2019年には北京において専門家によるワークショップが開かれ、我が国からも研究者が参加した。ここで策定された「研究データに関する北京宣言」の和訳を記録として日本学術会議から2020年に公開した

# 今後の活動



## Digital SI

デジタル時代の度量衡について、データ表現の在り方、信頼性の確保などについて、国際度量衡委員会との共同で専門家チームを形成し、プロジェクトを開始した

## タスクグループ・ワーキンググループ群

総会において新規採択・継続審査を通過した10程度の国際TG, WGが常時活動している。現在活動中のTG, WGには、

- 物理定数
- スマートシティ
- 農業データ
- 災害情報

などがある

## Data Together

グローバルな問題解決のためにはグローバルなデータの共有が不可欠である。国際的な学術データの共有・活用へ向けての活動を行っているWDS, RDA, GO-FAIRと協力・分担して課題解決に取り組んでゆく

